



ゆんたく 都島

2017 Vol.27

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

桜宮お引越し奮闘記 / 児童デイサービス / 都島児童館 / 教育クラブ

都島友の会の特別保育 / 職員研修 / 都島友の会の給食 / 保護者会

ひまわりの郷からの報告 / 比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット / YOUNG VOICE

リクルート活動 / 福利厚生活動 / 地域貢献活動

平成28年度事業をふりかえって / ゆんたくinformation

社会福祉法人 都島友の会



都島東保育園と都島こども園、 （こども発達サポートステーション それいゆ） その受け継がれていく精神と 明日へのカタチ

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

こしばらく私は、「ゆんたく都島」で都島友の会の歴史について書いてきました。前々号では「都島児童館」について、前号では法人の「乳児保育」の歩みやその施設の成り立ちについて書きました。

私が各園、各施設の歩みを書き記そうと思いついた理由それは、昨年法人が85周年を迎え、これから法人が90周年へと向かおうとする中で、これまで法人を支えてくださった多くの諸先輩方も少なくなっていく現在にあつて、微力ながらも時代に生き証人として、各園、各施設の歴史や成り立ちを書き記し、今後法人を担い、将来の法人を支えてくださる若い人々に向けて、語り継がねばならない大切な法人の原点を、語り部となつて伝えたいとの思いがあるからです。

さて今回は、都島東保育園と都島こども園（こども発達サポートステーション それいゆ）の歩みについてふれたいと思います。この両園は法人の他の施設とは些か異なつた成り立ちで出発しています。

今から半世紀ほど前、1970年頃から大阪府は待機児対策や女性就労支援等で、保育施設拡大として行政（公立）が建物を見て、経営や運営は民間に委託していく、公設民営という施策を行ってきました。

大阪市の公設民営の発想理念は、

- 第一 民間で働く有能な人材をいかに活用し主任保育士を管理職へと起用する。
 - 第二 公立・民間保育園の長所を取り入れ、地域社会へ貢献する施設作りをする。
 - 第三 民間の持つ柔軟性や効率化を活かして保育サービスの充実を図る。
 - 第四 民営化によつて生み出される市の財源、又、待機児解消など子育て支援の取組をする。
- とのことだつたように思います。

他方、都島東保育園の開園に1カ月遅れで、同年7月に同敷地内に障がい児通園施設「都島こども園が開園しました。

障がい児通園施設とは発達に「ますき」のある2歳から就学前までの児童に対し、人とかかわりの中で情緒の安定を図り、子どもたちの心身の発達を支援し、ご家族への相談と援助を行っている施設のことです。平成24年からは通園事業のほかに、相談支援事業や保育所等訪問支援事業、放課後児童デイも始めるなど次々と新しい事業にも取り組む、平成27年には園名を「こども発達サポートステーション それいゆ」に変更、新たなスタートを切りました。

「こども発達サポートステーション それいゆ」の特色は「都島こども園」発足から40年以上にわたつて大切に培ってきた療育の力、個別療育や個人懇談、「インリアルアップローチ」「ポーター」早期教育プログラム」といった様々な療育とそのノウハウです。一人ひとりを大切に、療育の環境を整え、保護者の方との緊密な連携をとる。今後も地域の児童発達支援の拠点として、園を飛び出し、積極的に地域に出向き、地域にいるすべての子どもたちが、個々のより適した環境の中で安心して過ごすことのできる支援、活動に取り組んでいきます。

さて、保育園と通園施設を同じ敷地で運営してみせる」と大阪府に啖呵を切つて見せた比嘉正子の目論見。当初は手探り状態、なかなか難しい問題もあつたようです。しかし開園から5年間、両園が積極的に交流に取り組み、試行錯誤の中、互いの保育室を行き来し、園庭を共有し、時や空間を共にする中で、子どもたちは互いの成長を自然に育んでいくようになりました。また併設されていた東都島老人憩いの家の利用者や地域の方々、平成13年には隣接して当法人の特別養護老人ホームひまわりの郷も開設され、いつしか東都島地域の中に、地域住民や世代間、障がいをもつ人もたない人の垣根を越えて、さまざまな人々の交流が生まれ、地域福祉のあるべき姿を予見させるような「あるカタチ」が少しずつ生まれてきたように思います。

- 昭和45年 第一号が東淀川区に「上新庄保育所」
- 昭和46年 港区に「池島保育所」
- 昭和46年 住吉区に「遠里小野保育所」
- 昭和46年 淀川区に「東淀川保育所」
- 昭和47年 大淀区に「中津保育所」
- 昭和49年 港区に「築港保育所」
- 昭和49年 生野区に「翼保育所」
- 昭和51年 生野区に「林寺保育所」
- 昭和52年 西成区に「玉出西保育所」
- 昭和53年 都島区に「大東保育所」
- 昭和53年 平野区に「加美長沢保育所」
- 昭和53年 生野区に「小路保育所」
- 昭和54年 平野区に「長吉六反保育所」

計14の保育所が、昭和45年に設置された財団法人大阪保育事業団（後の社会福祉法人なみはや福祉会）に委託されています。現在では公立保育所の移管も含め36か園にまでなっています。その内、昭和46年の池島保育所、昭和47年の中津保育所は当法人の主任保母を勤めた西平久子先生、中村清子先生が経営者兼園長として抜擢され、両先生は90歳まで現役をまっとうされました。

このような時代背景の中で、昭和47年（1972）、都島児童センターの建替えが行われ、都島児童センターは地域的に西都島地域（都島小学校校区内）であつた事から、東都島地域（東都島小学校校区内）からも保育園をもう一カ園増やしてほしいとの強い要望がありました。

ちょうどその頃、大阪府水道局の公舎跡地に、大阪府が老人憩いの家を併設した保育所設置の計画が進んでおりました。一方、都島区の北側、毛馬地区では、大阪市の障がい児通園施設計画がありましたが、住民の反対運動にあり、中断しておりました。そこで初代理事長比嘉正子は大阪府に、「東都島地域に予定している保育所は通園施設を

こうして40年の歳月が流れました。その間、保護者の皆様、地域の皆様のご支援・信頼を頂きながら両園とも運営を行つてまいりましたが、平成28年3月末、私どもは大阪府より公設の建物を買取り、委託から移管（完全民営化）へと形を整えることが出来ました。しかし40年の月日の中で、建物、設備の老朽化が激しく、空調設備、給食室の改善、トイレ、保育床、子どもロッカー、全室の照明器具、上下水管、電気、ガス器具、雨漏れの大補修などなど、一つ一つ追っかけながら補修、改善を行ってきましたが、それらによる弊害も多く、もはやその限界も見えてきております。

こうしたことを踏まえ、現在私どもは、都島東保育園、こども発達サポートステーション それいゆ の施設設備を一新し、隣接する特別養護老人ホームひまわりの郷と併せて、将来の地域福祉の活動拠点となるようなヴィジョンのある整備計画を押し進めています。

地域は人々が暮らす場であり、子育てや青少年の育成、防災や防犯、高齢者や障がい者の支援、健康づくり、そして人々の社会貢献や自己実現など、様々な活動の基本となる場です。年齢を重ねても障がいをもつても、誰もが住み慣れた地域の中で、自分らしい生き方を全うできる。そのようなあるべき地域のカタチ、地域福祉への理想に向けて、地域における「新たな支え合い（共助）」の拠点づくりを目指して、私たちはさらなる努力を傾けてまいります。どうかご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



都島東保育園は法人の他園と同様、青空保育以来の伝統を引き継ぎ、（樹木、草花、砂、水、生き物）を取り入れた環境作り、地域との関わり（園庭開放、地域子育て教室、東都島子育てサロン、福祉ふれあいフェスタ、都島区民まつり、都島こどもカーニバル等）を大切にして、特筆すべきは設立以来の伝統的な研究・研修への取り組みです。平成2年に第33回全国私立保育園連盟研究大会で「子どもの思いやりを育てる」を発表。同じ年には「子ども、保護者、保育共に豊かなふれあいを求めて」の研究を発表するなど、積極的に研究、研修の輪を広げています。平成28年には、平成4年度から20年以上にわたつて続けている園独自の名物運動「壁のぼり」を実践報告にしてまとめ、日本保育協会から、「0歳児から5歳児までの発達段階に合わせた運動は、近年注目されている『非認知能力』にも寄与している」との高い評価で第11回実践奨励賞を受賞するなど、東保育園の伝統は今なお健在です。



子どもたちへの支援、ご要望にお応えするため、 児童デイサービスを3つの事業所にー。

こども発達サポートステーション それいゆ 舟田 弥永子



こども発達サポートステーションそれいゆでは、発達障がいと診断された年中・年長児を対象とした小人数でのグループ療育を平成20年度より取り組んでいます。子どもたちが楽しいと感じる環境の中で子ども自身の力をのばすとともに、集団のルールを理解し、「できた!」の経験を積むことで自己肯定感を獲得し自信へと繋がるようにと援助を行っています。

また小学校入学後も引き続き支援を行うことを目的に、平成26年4月からは都島児童デイサービスを開設、学習支援を中心に発達支援・地域支援・保護者支援に取り組み、切れ目のない支援を提供できるように取組んできました。小学生の利用人数も年々増加し、平成29年3月には「児童デイサービスそれいゆ」を新設、4月には「都島児童デイサービスそれいぼ」を増設、都島友の会の児童デイサービスは、「あつふる」(都島児童デイサービスより名称変更)を含め3事業所となりました。児童デイサービスの各事業所では、自分のペースで好きなあそびや課題に取り組んだり、職員と一緒に楽しく過ごせるようにと余暇を中心とした支援も行っています。

今年度は当事業所を利用された児童2名が中学校に進学され、また3つの事業所にはそれいゆからの卒園児をはじめ、法人の保育園を卒園した園児たちも、私たちの療育支援を強く望まれ、現在数名の児童が利用されています。

これからも私たちは子どもたち一人ひとりに寄り添いながら成長を保護者の皆様と共に見守り、支援していきたいと思っています。

都島友の会の児童発達支援

対象児：1歳～5歳

- 親子で登園
- 体操
- 朝の会
- 活動
- 自由あそび
- さよなら
- 降園

親子でいろいろなあそびに参加し、お子さんと楽しさを共感する経験を行い、応答的な大人との関わりの中からコミュニケーションの基礎をしっかりと築けるように療育しています。『大人って楽しいことをしてくれる存在なんだ〜。』要求したらまた楽しいことができたよ!」



都島友の会の放課後等デイサービス

対象児：小学生～18歳

- 荷物整理
- その日のスケジュール確認
スタッフと一緒にそれぞれの課題に取り組む等
- おやつ
- 自由あそび
- 帰宅準備
- 車で送迎又は直接帰宅



個々の発達段階や障がい特性を把握し、保護者のニーズ・お子様の興味に合わせて、個別課題に取り組んでいます。友だちや大人と一緒にゲームをしたり、お話ししながら、集団での約束や社会のルール・相手の気持ちを知る経験につなげています。



構造化された環境の中で、何をどこまでやったらいいのかを視覚的に分かることで、見通しが持て、出来た!わかった!の経験が積み、自立活動につながっています。集中して学習に取り組める時間が伸びています!『自分の持てる力が発揮できることで学校でも評価されたよ!』

新園舎の完成を心待ちに
仮園舎に引っ越します!



園内の荷物を倉庫や仮園舎にお引っ越し!!

引っ越し委員で打ち合わせ中です

コツコツと荷造り&お引っ越し!

隣の部屋では子どもたちがスヤスヤお昼寝中 zzz

桜宮お引っ越し奮闘記

2018年春 都島桜宮保育園は、 リノベーション(刷新)・イノベーション(進化・発展)!!



仮園舎も見てきたよ〜

仮園舎の外からの様子です

「奥の部屋が私たちの部屋?」と確認中です!



仮園舎ってどこにあるの?

「お〜!す〜い!!」と驚きの表情を見せていました

都島桜宮保育園 米田 正和・高瀬 めぐみ

(第一回) 仮園舎への引っ越し、ようやく終わりました。

都島桜宮保育園は、平成3年4月に法人創設60周年を記念し開設されました。当初は定員90名でしたが、入園希望が多く現在では130名まで増員しています。都島区は昨今の都心回帰の現象もあり、保育ニーズのきわめて高い地域です。中でも当園はJR桜宮駅、地下鉄都島駅のすぐ傍、周辺も緑も豊富で、運動会など行事でお借りすることのできる広いグラウンド、西へ行けば美しい大川や散策路もあり、子どもの育つ場所としては非常に恵まれた環境です。

もちろん日頃から職員が一致団結して子どもたちの教育保育に力を注ぎ、また保護者の方や地域の方々も当園の良さを広くPRしてくださっている効果なのか、毎年70名以上の応募があり、皆様のご希望に全面的にそえない状況が続いています。

そこで、少しでもご希望に応えたいと平成29年1月には分園を開設、今回かねてよりの念願であった本園の全面的なリノベーションを行うことになりました。

本園増築工事の期間、都島駅近くのグルメセンター横に仮園舎を設け、仮園舎でも子どもたちが快適に過ごせるように、職員たちで室内のレイアウトをはじめ、様々な知恵や工夫を出し合いました。またそれと並行して引っ越し準備を進め、保育園の荷物を整理する中で「こんなにも備品があつたんだ!」と物の多さに驚嘆の二語!! 職員が引っ越し計画を立て、子どもたちの昼寝中などに少しずつ搬出、その間にも法人各園や保護者の方々が、「ウサギ預かるよ」「引っ越し手伝うよ」と声を掛けていただき、改めて皆様に感謝する機会となりました。

本園の完成は来年2018年の春。約半年間、子どもたちと共に仮園舎での生活を楽しみながら、新しく生まれ変わる新園舎の誕生をドキドキ・ワクワクしながら心待ちにしています。

子どもたちの日常の姿

放課後児童クラブは子どもたちにとって一日の中のほんの一部。
放課後児童クラブの一日の最後は子どもたちと保護者方に「さようなら、また明日」と送り出します。
子どもたちは帰宅し、夕飯を食べて、入浴、就寝。起床して、朝食を食べて、小学校に向かいます。
勉強をして、休み時間を取り、勉強をして、給食を食べて、また勉強をする。
再び放課後児童クラブに「ただいま～」と子どもたちが帰って来ます。



(支援員)
「おかえり」と迎えながら、日常から支援員は子どもたちの一人ひとりの表情を観察しています。
元気な子、疲れてる子、悲しそうな子、怒っている子、いつも通りの子。心の中では「早よ手洗いうがい」「早よ着替えて」「早よ宿題しなさい」と連呼していますが、24時間ぶりに会った子どもたちに、その間、学校や家庭でそれぞれに何があったのかも分からないまま、いきなり「あれしい、これしい」と本題に入るのもどうなのかなと・・・。



下校後

帰ってくる子。嫌なことがある、途中で家に帰っちゃう子。今日は着替ええない子。いつもしないのにすぐ宿題をしている子。(支援員)
学校や家庭でそれぞれ色々なことがあって放課後児童クラブに来ます。
表情や行動を見極めてその子にとって今日のよきな接し方が一番良いのかを考えます。



おやつ

みんなの大好きなおやつ。ほっと息つけるおやつの時。
おやつは子どもたちが用意します。「今日は何人出席か？」と支援員に尋ね、人数分に自分たちの好きなおやつを配膳し、みんな揃って頂きます。



あそび

外あそびでは、鬼ごっこ、うんてい、ブランコ、鉄棒、泥あそび、地域のお友だちとあそんでも汗だくになりながら思いっきり走り回っています。
施設内では、工作や自主学習、ごっこあそびや大好きな玩具であそんだりそれぞれの今したいことをして過ごしています。
(支援員)
それぞれのお遊び方は今日初めて思いついたものではなく、子どもたちが毎日継続しているものであり、それを積み重ねて発展させていきます。自分たちで話をしながら工夫をしており、特に日頃のお遊びを見ているとあそびの幅がどんどん増え、子どもたちの成長が目に見えてわかります。

子どもたちにとって日常の放課後児童クラブは一日の中のほんの一部であり、学校、家庭、習い事、地域、放課後児童クラブと一日の全てが成り立つた上で子どもの生活は形成されています。
毎日同じようではなく、それぞれが過さず日常の一部となり、放課後児童クラブでは、日常から繋がる一部分と、子どもたちの今したいことを大切に行きたいと思えます。では、「さようなら、また明日」

幼児教育の大切さが注目されている今、教育クラブに密着取材!!

現在、都島児童センターには、体育・書道・絵・英語・モダンバレエ・ピアノ・チアダンスの7つの教育クラブがあり、専任の先生から質の高いレッスンを受けて豊かな感受性や学力を身につけています。

教育クラブの変遷

法人の教育クラブの前身は、戦後、空襲で焼け野原となった都島の地に子どもたちのお宿「都島児童館」を作った時、保育部の職員や地域の人が混乱の中で行き場をなくした子どもたちのために、勉強をはじめ、習字やそろばん、絵といった習い事を無償で教えることが始まりでした。
その後、放課後児童健全育成事業として、指導員が配置され専任の先生が配属される体制が整いました。やがて学童向けであった教育クラブも徐々に保育園の在園児向け(年少児以上)となり、子どもたちが新たな環境で様々なことにチャレンジしていく場として、活動の幅が広がりました。また保護者の方が就労の時間の都合上、園外の習い事への送り迎えなどが困難である場合でも、園内で利用が可能のため、教育クラブの人気の高まり利用者が大幅に増えていきました。

平成29年度より教育費が無償化

幼児教育の重要性、質の高い幼児教育の必要性との見地から、大阪府は平成29年度より幼児教育の無償化(4・5歳児)を拡大しました。1号認定の幼稚園等保育料はすべて無料、2号認定は保育料のうちの教育費相当額が無料となりました。
子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培い、心身ともに健やかな育成を支えるためには、幼児教育及び保育の質の向上が重要です。そのためにも園での幼児教育はもちろん、法人の教育クラブをはじめ、子どもたちが課外活動に積極的に参加し、活動の幅をぜひ広げていくことを目指します。

ピアノクラブ

5歳児以上対象。ピアノの基本を学ぶことはもちろんのこと、子どもたちが弾きたい曲のリクエスト(最近ではクラシックだけでなく、プリキュアや戦隊物のテーマ曲も人気です)に答えて楽しくすすめていきます。連弾やアンサンブルなどにも挑戦し、合同発表会で発表します。

英語クラブ

幼児クラス(3歳児以上)と学童クラスがあります。出席をとる時は名前を呼ばれると「I'm here」と元気に返事!英語のうたに合わせてアルファベットの発音を覚えたり、ピングゴなどのゲームをしたり、ワークブックを通して楽しく英語に触れています。

体育クラブ

4歳児以上対象。運動の基本動作を獲得するサーキット運動・保護者や子どものニーズに合わせたポイントレッスン・ルールのあるふれあいゲームで協調する社会性を養うプログラムで体を動かす楽しさを伝えていきます。

教育クラブを紹介します!

書道クラブ

5歳児以上対象。幼児クラスは硬筆で自分の名前や季節ならではの単語を練習しています。小学校低学年クラスでは習字の筆の使い方基礎を学びます。高学年クラスでは書道(芸術)として気持ちを集約させて文字を書いています。段位も伴ってくるため、日々熱心に取り組んでいます。

絵のクラブ

4歳児以上対象。「絵のクラブ」という名前ですが、絵画・造形・制作と幅は広く、テーマに沿って自由に表現することを一番の目的としています。様々な画材を自分なりに工夫して楽しく表現する力を培っていきます。

モダンバレエクラブ

3歳児以上対象。愛いっぱい♡笑顔いっぱい♡「楽しくレッスンをしながら自然にリズム感を」をテーマに柔軟性はもちろんのこと子どもたちが豊かに感情を表現する力を育てる情操教育のお手伝いをしています。ホールの大舞台での発表会に向けてテーマを統一してすすめています。

チアダンスクラブ

4歳児以上対象。チアクラブは教育クラブの中では一番新しく昨年度の10月に始まりました。合言葉「笑顔・元気・仲間」の掛け声で練習がスタート!ダンスの中にも掛け声を取り入れながら、可愛い笑顔と元気いっぱいのダンス、仲間と一緒に踊る楽しさを大切に取り組んでいます。

育児の困りごと、悩み、何でも私たちにお気軽にご相談を!

都島友の会では子育て中の方々に向けてさまざまな取り組みを行っています。

すくすく

一時保育事業を始めて25年。
「すくすく」の利用者は延べ5万人を超えました。

都島第二乳児保育センターの3階フロアにある「すくすく」は、法人の一時保育事業を担っています。開設してはや25年、初年度の利用者が184人だったのに対し、平成28年度には4060人、現在までの利用者はなんと5万人を越えました!
一時保育を利用される理由としては、「保護者の傷病・入院」「育児疲れによる育児負担の軽減」などが挙げられますが、近年では保育園への入所が難しくなり、待機児童が多くなっているため、「就労」での利用も増加しています。

0・1・2歳児の利用がほとんどですが、春休み・夏休みの期間は幼児の利用もあります。ただ最近では、休み期間中の保育ももっている幼稚園や認定こども園も増え、幼児の一時保育の需要は減っているように感じます。「すくすく」の一時保育を利用された保護者の方々が、法人内の保育園・認定こども園を希望され、入園へと繋がっていくのを見ると、「すくすく」での保育を評価して頂いたようで本当に嬉しく感じます。

こんな多くのお子さんや保護者との出会いがあるのは一時保育ならではの!!



利用したいけど、どうすればいいの?

- ①利用希望日を連絡⇒都島第二乳児保育センターへ(06-6921-7221)
- ②利用希望日の調整と確認
希望された内容を一時保育担当が確認し、利用日の調整
※希望者が多い場合は、調整できない日もあります。
- ③確認の電話をかける
決定した利用可能日をお伝えします。
- ④面接
利用日までにお子さんの様子をお聞きしたり、利用時の説明
③の確認の電話をかけていただいたときに面接日の調整
- ⑤利用

	利用者述べ人数
平成4年度(開設)	184人
平成28年度	4,060人
平成29年度(4・5月)	441人
一時保育事業利用者総人数	55,396人

『ゆっくり ゆったり』みんなで子育て!小さな出会いの場!

子育て真っ最中の保護者の方々にとって心配なこと、わからないこと...いっぱいありますよね。そんな気持ちに寄り添って話をじっくり聴き、それに応じて共感し、解決する方向に援助するように心がけています。



保育園での手あそびも紹介!
たくさんの絵本との出会いも♪

子育て相談Q&A
保育園や地域子育て支援センターでは、保護者の方や地域の方々から子育てに関する相談を受けています。その中でよくある相談をいくつかご紹介いたします。

Q 子どもがどうして泣いているのか分からない。
A あれこれ手を尽くしても泣き止んでくれない時は、本当に困りますよね。原因が分からない泣きもありません。そんな時は、「今は泣きたいんだな」と思いしばらく抱っこして気持ちを受け止めます。

Q 育児書どおりに育っていないんですが、大丈夫?
A 赤ちゃんの成長には個人差があります。育児書に書かれてあるものは、あくまでも目安です。同じでなくても心配はいりません。元氣よく機嫌よく育っていれば大丈夫ですよ。

お勤めで忙しい保護者の方に代わって、看護師・保育士が連携して回復期にあるお子さんを看護・保育します。離乳食やアレルギーの対応もしており、「熱は下がったけど、いつもの様な元氣(食欲)がないわ...」でもこれ以上仕事は休めない」という時に是非利用してください。

子どもたちの健康と安全を見守りながら、保育(看護)を行なっており、年齢や体調に合わせてあそびを行ないながら、安心して過ごせるように工夫しています。

病後児保育の利用について...

必要な書類
利用申請書、医師の連絡表、登録用紙(1年ごとの登録が必要です)

利用できる時
風邪、腹痛、手術後の静養、ケガなど

◎必ず医師の診察を受け、『医師の連絡表*』を持参してください。
*大阪市のHP、友洲乳児保育センターHP、「病後児ルーム ひまわり」のページからもダウンロード出来ます。

利用できない時
医師の診断で利用が無理と判断された時や熱がなくても朝から下痢や嘔吐の症状があるとき。

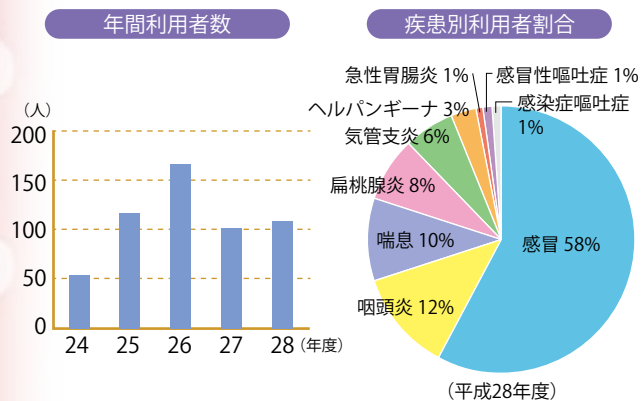
利用料金
1日の利用料 2500円+500円(昼食、おやつ含む)

定員
1日あたり4名(申し込み順)

まずは登録が必要です!

いざという時に利用できるよう、事前に申し込み登録しておくことをお勧めします!

病後児ルームひまわり



数字で見る都島友の会

法人全体の総園児・児童数が15000人近くになるとする都島友の会。86年に及ぶ伝統と質の高い教育・保育が、地域の方から厚い信頼を寄せられているのではないかと、これまで以上に一人ひとりの子どもたちの成長を見守り、丁寧なサポートしていかなくてはと責任を痛感しています。

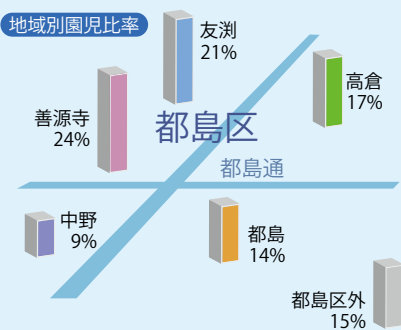
施設名	年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
都島児童センター		7	19	28	76	83	74	287
友洲児童センター		5	28	43	60	51	53	240
成育児童センター		9	17	17	17	15	17	92
桜宮保育園		15	27	33	30	32	27	164
東保育園		8	20	22	27	26	30	133
乳児保育センター		18	42	0	0	0	0	60
第二乳児保育センター		0	13	51	0	0	0	64
友洲乳児保育センター		6	11	13	0	0	0	30
それいゆ		0	0	3	8	18	5	34
合計		68	177	210	218	225	206	1104
施設名	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
都島児童館		72	48	23	12	18	9	182

(平成29年4月現在)

法人施設利用児童数は15000人(1)近くに!!
平成29年度には都島区の人口は10万6083人となり、年々増加の一途をたどっています。人口の増加により昨年度は、保育所への入所希望者の増加数が市内1位、入所倍率は1.22倍となっており、年齢別では2歳児が昨年比2.06倍↓、2・3歳児への上昇、3歳児では昨年比1.23倍↑、1.89倍へと急上昇、半数以上が入所できないとなるなど、保育所等の整備や人員の確保が急務となっています。

そんな中、都島友の会では多くの方の要望にお応えするため、平成28年「桜宮保育園分園」を開設、現在は「桜宮保育園本園」の増設に向けて急ピッチに工事を進めています。また学童クラブでも「御幸生活クラブ」を新設するなど、ニーズに即した取り組みを積極的に行っています。

法人全体の総園児・児童数が15000人近くになるとする都島友の会。86年に及ぶ伝統と質の高い教育・保育が、地域の方から厚い信頼を寄せられているのではないかと、これまで以上に一人ひとりの子どもたちの成長を見守り、丁寧なサポートしていかなくてはと責任を痛感しています。



奨励賞

1 危険箇所の確認

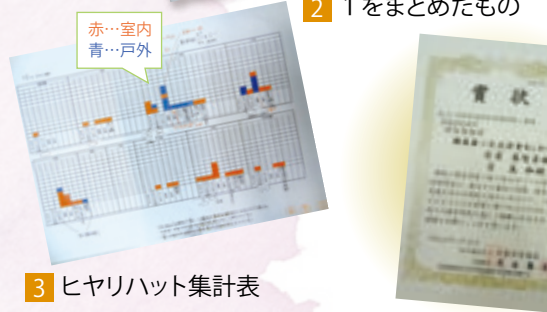


水道場で打撲する可能性
角で打撲する可能性
角などで打撲する可能性
玩具箱の引き出しで指詰めする可能性



危険箇所チェック
全部で53枚!!

2 1をまとめたもの



3 ヒヤリハット集計表

リスクマネジメント委員会

今回、リスクマネジメント委員会が奨励賞を受賞したテーマは「保育の質を高めるリスクマネジメント〜ヒヤリハット集計後の事故回避の取り組み〜」。このレポートは平成26年度に「第9回保育実践研究・報告」で研究奨励賞を受賞した研究報告に続く研究成果です。

受賞した講評としては9か所の施設を運営する法人が、法人全体としてリスクマネジメント部会を設置し、「ヒヤリハット」を分析、事故回避の実践に取り組んでいること。また「一過性に終わらず、研究を継続発展させ、前回よりも事故回避への具体的な対策を実施して日頃の保育の向上に役立てられていることなどが挙げられました。評者の方からは今後も一層の研究の深化と継続的な取り組みをするように期待が寄せられました。

日本保育協会主催「第11回保育実践研究・報告」で、法人の「リスクマネジメント委員会」と「都島東保育園」が奨励賞、実践奨励賞を受賞!!

日頃の研修成果とその継続性が高く評価されました!!

社会福祉法人日本保育協会保育科学研究所が主催する「第11回保育実践研究・報告」で、法人のリスクマネジメント委員会が奨励賞を、都島東保育園が実践奨励賞をそれぞれ受賞しました。

都島友の会では過去、都島桜宮保育園が実践奨励賞、友渕児童センターが奨励賞、そして都島友渕児童センターが研究奨励賞を受賞しています。

今回の受賞も、長年にわたって職員たちが様々な分野にわたり研究・研修を行い、職員全体への理解を深め、実践に結び付けていった、その成果が認められたように思います。

都島東保育園



受賞したのは「壁でつながる0歳からの発達〜わが園の名物となった『壁のぼり』」。平成4年度から20年以上にわたって取り組んできた都島東保育園伝統の「壁のぼり」のいわば実践報告です。

評価としては、0歳児から5歳児までの発達段階に応じた運動を、体力の状況に応じて補助用具を使うなど無理なく壁のぼりにチャレンジできるような配慮がなされている点などが挙げられました。特に嬉しかったのは、「壁」という目に見える目標が子どもたちのやる気を起こし、近年注目されている『非認知的能力』の向上にも寄与していること」と評価されたことです。

今後は取り組みを行う中で、子どもたちの成長にどのように活かされているかを広く伝えていき、多くの方にもっと興味を持ってもらえるような活動にしていきたいです。

『非認知的能力』とは

「課題や目標に向かって日頃から取り組む」「諦めない気持ちや達成感、自信がつく」「頑張っている友だちを応援する気持ち、頑張りを認める気持ち」日々の取り組みの中で都島東保育園ではもっとも大切にしています。



▲乳児の坂道のぼり

認知症サポーター研修



絵本研修



“学び”から実践、成長、そして更なる飛躍へ～

本年度から職員研修は、比嘉正子地域貢献事業研修センターが主催。

ウェルネス研修



防災研修



管理職研修



長年培われた法人の研修制度

保育や療育、介護に携わる私たち職員は、常に人間性や専門性の向上が求められています。そのため法人では以前から職員を対象とした独自の研修を実施してきました。

研修と一口に言っても、新人研修、リーダー研修、施設長研修など職位や階層別研修があり、障がい児部会、保健衛生部会、リスクマネジメント部会、子育て支援部会など分野別部会研修、さらには子どもとの関わり方、食育、発達支援、保護者支援、安全対策など研修の内容も様々。

私自身、1、2年目に「遊戯・体操研修」、3、4年目で「子どもの発達を支える保育」、5年目から3年間は「今求められている保護者支援、子育て支援」の研修を受け、保護者の気持ちや「地域の中での保育園の役割」について深く気付くことが出来ました。また10年目に受けた「認定こども園に向けての研修」では「子ども・子育て支援新制度」の成立意義や認定こども園の役割について多くを学びました。

実践の場で、“学び”の意義に気づくことも

法人の研修は多領域に渡っていますが、これらは全て教育・保育や社会福祉を実践するには大切なことばかり。学ぶことが大きければ大きい程「なるほど」と思うこともあれば、「難しいな」と思うこともあります。でもその時難しくて経験が積む中で研修の意味が理解できるようになったり、自分の保育に取り入れることができるようになることもあります。研修を受けることで学ぶ事が多く、職員の資質の向上を求める上でとても大切だと感じます。

キャリアパスにも対応した研修

平成29年度からは厚生労働省のキャリアパス制度の導入に向け、比嘉正子地域貢献事業研修センターが研修を主催していくこととなりました。キャリアパスとは、「職務経歴上の道筋」を意味し、一人ひとりの職員にとって施設における自らの歩むべき道筋を描きながら、将来に向かって努力し、キャリアパスの階段を昇っていくという定義がされています。

これからも私たちが各自のキャリアや能力に応じた最適な研修を受け、すべての職員が法人の理念を正しく理解した上で同じビジョンを持ち、意識・知識・技術の3つをバランスよく伸ばしながら成長していければと考えています。

保護者会 86年の歩み

～「母の会」から「保護者会」へ～

都島児童センター 錦城 栄旭



写真の色は変わっても
今も昔も変わらない園行事の風景

父親の行事への参加も増え、都島桜宮保育園・都島児童センターでは父親だけのイベント「パパイベント」も開催している



現在、夏祭りやバザー、保護者会主催のさまざまな活動で都島友の会を支えていただいている保護者会。その前身である「母の会」の歴史は古く、昭和6年、初めて都島の地に都島幼稚園を開設したときから始まります。

十分な資金も、食料や遊び場さえなかった当園を、戦前・戦中・戦後、支えていただいた「母の会」は、時に子育ての勉強会、時に女性として母として互いに研鑽に励むなど、緊密な結びつきを持たれ、都島友の会の後々の発展に大きな貢献を果たされることとなります。

その伝統を受け継ぐ「保護者会」。現在も各園、各施設では保護者会役員の方を中心に「こども緑日」や「夕涼み会」などの季節の恒例行事から、アイデアや趣向を凝らした「保護者会主催イベント」の企画や運営を開催していただいています。

昭和初期の「生活第二」の時代から社会が豊かになり子育てを取り巻く環境も大きく変わってきている今日にあっても、家庭での「子育て」、施設での「教育・保育・療育」を通して人（家庭）と人（施設）とが支え、助け合うことができるようにつながり続けていきたいと思います。

先日、6月3日（土）比嘉正子地域貢献事業研修センターにて法人内の認定こども園（3カ園）、保育園（5カ園）、療育施設の保護者会役員代表の方々の懇親会がありました。

初顔合わせのため、はじめは緊張感のあった雰囲気も自己紹介などを通して次第に和らぎ、笑い声も聞こえる和気あいあとした雰囲気。

現在、法人では千人を超える子どもたちが各施設を利用しています。その中で一人ひとりの子どもを大切に、戦後「衣食住」が十分にならないときにみんなで助け合ってきたように、法人と保護者の方々、保護者同士の結びつきをもっともっと強固なものとして、「困っている」ことがあればみんなで共有し、「つなぎつないで」ひとつの大きな力に変えていけたらと思います。



5階の比嘉正子記念資料室で比嘉正子が昔、NHKに出演した様子をテレビ鑑賞

食の安全、食の美味しさをさらに追求して。

都島友の会の給食は現在、各施設とも業者の方に委託して作って頂いています。元々、給食調理は法人内の職員によって行われていました。当時は栄養士や調理職員とともに園長や主任、保育士が給食室に入り、調理や食器洗浄などを手伝っていたとのこと。まさに法人オリジナルの手作りの時代でした。しかし食数の増加やアレルギー食の対応など調理業務も多様化し、また法人職員の中から独立して給食会社を経営したいとの声もあがり、今以上に給食の質が保たれ、法人独自の献立が供給できること、さらには業務の効率化が図れるかどうかを検討され、それらをクリアできたことから、平成17年から業務の委託化が始まりました。

委託業者	施設名
高齢者施設での受託実績から、豊富なメニュー満載！	ジャパンメディカルフード 都島児童センター
鶏肉の卸売業者さん。地元のスーパの総菜コーナーでも大人気！	メディッシュフードサービス 都島乳児保育センター 都島第二乳児保育センター 都島桜宮保育園 都島東保育園 こども発達サポートステーションそれいゆ
魚料理の会社で、たくさんのお店も出店しています。	ワイエスフードサービス 友洲児童センター 友洲友洲乳児保育センター
	中央フードサービス 特別介護老人ホームひまわりの郷 デイサービスひまわり 成育児童センター

給食が委託された理由は...



委託企業によってこんな特色が

もっと美味しい給食にするために「食べ比べ会」を開催。

同じ業者に委託している4施設の園長・主任が、その日の昼食を持ち寄り、味・見た目・切り方などを検討し合いました。

- 「同じ業者でも味噌汁・清汁の出汁の味が少しずつ違う。」
- ↓出汁がしっかりと効いていると薄味でも美味しい！
- ↓塩分濃度を再確認。（離乳食0.1〜0.3%、幼児食0.4〜0.5%）
- 「野菜の切り方が違つね。（乳児センターは乳児ばかりの園だから、同じ完了食でも野菜の切り方が小さいが、幼児のいる園では大き目に切られていて、「口っ」として食べ応えがある）」
- ↓咀嚼の発達を促すことやフォークで刺して食べやすいように、小さくなり過ぎない方が良い。

今回の話し合った内容まとめ、後日の給食会議で委託業者に伝え、これまでに健康的でバランスのとれた給食となるよう話し合い、その後のレベルアップに繋がりました。

次の機会があれば、委託業者を交えて試食会を行いますますすレベルアップしていけたらな、と思います。

委託であっても、きめ細やかな配慮はそのまま！

児童施設、高齢施設には管理栄養士を配置し、園児や利用者の方々、その家族ともお会いして栄養相談も行っていきます。また管理栄養士が各業者と連携し、栄養管理や衛生管理を行い、食の安全や友の会の伝統の献立が提供されています。

なぜ複数の業者と契約しているの？

委託をお願いしている各企業にはそれぞれの特徴があります。それぞれの企業がその良さを競い、情報交換することで、美味しさや献立内容、アレルギー対応など、いっそう給食の質を高めていくことが出来ます。



七夕の日のおやつ「七夕ゼリー」

さんまの塩焼き

とうもろこしの皮むき

中央フードさん50周年記念パーティー！！

子どもたちの大好きなベビーカステラを、お祭り風に焼いてみんなにふるまってくれました！

おやつ「れんこんチップ」



胃瘻から 食事へ

Aさんは平成27年に入居されましたが、そのときに胃瘻の状態でした。胃瘻とは、老化などの影響で呑み込み（嚥下）が悪く、食事は口からとれず、直接胃に栄養を届ける方法です。喉を通さないで、味を感じることはありません。

1日1回のペースで始めました。つを食えることから開始し、ゆっくりとしたペースで始めました。多職種と連携し、食事形態の検討を重ねました。結果、3か月がたった今では、スプーンを用いて食事され、米飯など3食すべての食事を楽しんでいただくことができるようになりました。私たちにとても成果が表れた驚きの回復でした。

入浴の機械が新しくなりました!!

6月の中旬にお風呂の機械を新たに導入しました。車椅子介護浴槽の「トゥッティ」と特殊浴槽の「ジュスト」の2種。昨年導入した個浴浴槽の「ボランテエコ」を含め、これで3種類の入浴機械が入り、入居者の皆さまそれぞれに合ったスタイルで入浴を楽しんでいただけるようになりました。

導入前に全スタッフがマニュアルを熟知し、業者からの取り扱いのレクチャーを受けることで、安全に入浴して頂ける準備をすすめてきました。給湯機器や配管周りの工事で3日間入浴できない期間があり、ご迷惑をお掛けしましたが、導入後は入居者の皆さんから「とても気持ちよく入浴できた!」とのお褒めの言葉もいただいております。

今後事故もなく、快適に過ごしていただけるように、スタッフ一同、研鑽に努めてまいります。



ボランテエコ
昨年導入

ジュスト ▲トゥッティ

新しい特浴です!!

比嘉正子地域貢献事業研修センター

HIMAWARI.NET 連載こらむ

ネットのきもち

映画「人生フルーツ」を観た。
つばた修一さん90歳、英子さん87歳 風と雑木林と建築家夫婦の物語です。

若かりし頃、自然との共生を目指したニュータウン計画に携わったものの、経済優先の時代にはそれは許されなかった。50年前に自ら手がけたニュータウンに土地を買って家を建て雑木林を育て始めた。長年連れ添った夫婦のそこの暮らしは細やかな気遣いと工夫に満ち、四季折々の庭で丹念に育てられた70種の野菜と50種の果実は英子さんの手で美味しい「ちそう」に生まれかわる。梅の実が梅干しやジャムに。もちろんイチゴ、ラズベリーもジャムとして。玉ねぎは軒に干し、ジャガイモはほくほくのコロケ!! 春先にはたけのこもニョキニョキと顔を出し……。一日中、自分のペースでゴコンゴと夢・私にとっての生活・時間が流れていきます。

画面から伝わる「夫婦の相手を常に思いやる心。怒りや不満を無理にお腹にため込んだ。我慢した思いやり」ではなく、自然に自分の思いを伝え、相手の思いも理解し尊重しあう気持ちの余裕、そこにはお二人の心の奥行きが感じられます。

静かに穏やかに過ごしたい。けど、無理!無理!忙し!忙し! 相手の思いを知っても、知らぬふりしたり自分の価値観を押し付けてしまったり……。今に気付いたわけではないけれど、「忙しい」を言い訳にしていた。話し合う面倒を避けていた。映画に行くことでリフレッシュもでき、映画を観ることで自分を振り返るきっかけにもなった。

建物と建物の間に、人と人の間に、心地いい風が通っている。心地いい風を通すためには、「思いやり」+「聴く」こと。そして、なにより自分の大切にしたいこと(もの)を胸に持っておきたい。

英子さんは「とにかく見守る。みんな同じじゃないですもの。一人ひとり、みんな違う。マニュアルなんかないの。畑に育て野菜も、同じようなものでも決して同じものはないのね」と淡々と語る。心にスッと入る。素直な気持ちになれた。いい映画だったなあー

風が吹けば、枯葉が落ちる。
枯葉が落ちれば、土が肥える。
土が肥えれば、果実が実る。
こつこつゆっく。

(映画:人生フルーツより)

(地域貢献支援員 岡本 和江)

支援を必要とする人々の現状

私たちが取り組んでいる “生活困窮者生活レスキュー事業”とは・・・

「食料が底をついて、明日から食べるものがない」「家賃が払えず今月アパートを出ていかなければならない」「突然、病気で仕事に行けなくなりました」:etc. あなたのまわりに様々な理由で、既存の制度では対応できず、「制度の狭間」で苦しんでいる人、現状の生活に身動きが取れず悩んでいる人、そのような方はおられますか? 助けてあげたいけど自分の生活で精一杯。でも大丈夫です! そんなときのために社会福祉法人があります。そういった人を支援するため、私たち「ひまわりの郷」では社会貢献事業として「生活困窮者レスキュー事業」を行っています。

① 要援護者の発見:

支援を必要としている方から直接相談がある場合もあれば、各種機関(包括支援センター、自立相談窓口、民生委員等)から連絡をもらう場合もあります。

② 訪問・相談:

ひまわりの郷に常駐しているコミュニティソーシャルワーカー(CSW)が相談者の自宅を訪問し、生活環境・経済状況・心身の状態等を確認しどのような支援が必要かを検討します。

③ 制度へのつなぎ:

生活保護、介護保険、無料低額診療所等、適用できる既存の制度がないかを検討し、必要であれば制度につなぎ問題解決に努めます。

④ 経済的援助の検討:

命にかかわる緊急を要する場合は、食材費・光熱水費・住居関係費などの支援を現物支給で行います。

⑤ 継続的な見守り:

本人の生活の自立を目標に継続的に見守りを行います。



ひまわりの郷では平成28年度には13人の方からの相談がありました。その中の一人に、度重なる骨折で入院費の支払いのため貯金を使い果たし、家賃が払えなくなった方がいました。そこで私たちは家賃の支払いや食料品の購入のための援助、家賃の減免の申請を行いました。相談に乗り始めた当初は家族とも音信不通でしたが、半年間関わっていく中で音信不通であった娘さんとも連絡がとれるようになり、「生活を立て直すことができました。」と笑顔でお礼を述べられた姿が印象的でした。

多くの方々への支援の一助となるべく、私たち「ひまわりの郷」はこれからも地域福祉の拠点として、地域のみなさまの安心・安全を支えるお手伝いをしていきます。

認定こども園 都島児童センター
山口晃穂 (2年目)

母園に就職して…

母園の都島児童センターに就職し2年目になります。ずっと憧れていた「笑顔の絶えない先生」そして「先生たちのカラフルなエプロン」、私が通っていた時から変わらない「子どもたちの体操服」…すべてが私にとって今でも素敵な思い出です。就職して1年目は分からないことが多く戸惑うこともありましたが、多くの先輩方が一つひとつ丁寧に教え、支えてくださるので、いろいろな視点から考え方を学ぶことができました。また、経験をすることで「発見」「学び」が私の自信に繋がりました。毎日子どもたちと関わる中で、同じ目線になって、一緒に笑ったり、驚いたり日々子どもたちの成長する姿を目の前で感じ、自分自身も成長することができ「好きなことを仕事にする」のは素晴らしいことだと思っています。



特別養護老人ホーム ひまわりの郷
丸野敏寛 (1年目)

介護の仕事を始めまして

私は前職があり、パンの製造の仕事をしていました。転職で、福祉に関心を持ち、自分の性格や特長が介護に向いていると思い介護の道を選びました。介護の仕事を始めまして、運動は得意な方なので肉体的に辛く感じることはまだありません。しかし、認知症の方と初めて接するので、認知症の理解不足で精神的に傷つく時があります。最近、自分の名前を覚えてくれる入居者さんもいて、徐々に自信をつけ、楽しく感じるようになりました。これからも日々介護の勉強を続け、介護技術の向上にも励み、信頼される職員になりたいです。



都島東保育園

和田麻葵 (1年目)



働きはじめて

都島友の会の法人の職員として働いて数カ月が経ちましたが、まだまだできない事や分からない事がたくさんあり日々先輩に教えてもらっています。私は学生時代に都島東保育園での実習をし、子どもたちを褒めて保育をしている保育者の姿に魅力を感じこの法人を選びました。実際に働いてみて子どもの頑張りが成長を認めて褒め、子どもが自らやりたいと思えるような援助をしている先輩方の姿にとても刺激を受けました。これからもいろんな事をここで学びたいと思います。

都島乳児保育センター

岡村由香 (3年目)

3年目になって、気持ち新たに

大学3年生の時、インターンシップで、都島乳児保育センターで1年間実習をさせて頂きました。何もわからない私に先生方が優しく教えて下さり、「ここで働いてみたい」と思い就職を決めました。1年目では子どもとの関わり方など戸惑うことも多々ありましたが、先輩方に丁寧に教えて頂き少しずつ出来ることが増えていくことに喜びを感じました。今年3年目として、今まで先輩方に教えて頂いたことを活かして後輩にも伝えていきたいです。そして私自身初めての1歳児の担任として、また新たな気持ちで子どもたちと一緒に成長していきたいです。



YOUNG VOICE

今年も都島友の会に、真っ新たなニューフェイスたちがやってきました。一方、ようやく仕事や職場にも慣れ、今後ますます飛躍を期待される2年目、3年目のフレッシュな職員たち…。彼らの姿から、期待や不安、やりがい、そして夢、きっとみずみずしい視点や想いが見えてくるはず。法人の未来を担う元気な仲間、元気な声をお届けします。

都島第二乳児保育センター
渡辺小夜 (3年目)

子どもたちの笑顔が元気の源



子どもたちの笑顔は私の元気の源です！その笑顔をたくさん見られるように、これからも楽しい保育を目指していこうと思います。

今年で保育士3年目になりました。働き始めた頃は戸惑うばかりで、様々な失敗と共に保育士という仕事の責任の重さを感じました。昨日まで出来なかったことが次の日には出来るようになっていたり、日々、子どもたちの成長に感動しています。しかし、より良い保育を目指す中で思い悩むこともありました。その際に手を差し伸べてくれた先輩方、失敗して挫折そうになった時に同期という存在に助けられ今の私がいます。

都島桜宮保育園
杉元愛奈 (1年目)

先輩の話を聞き、実際に働いてみて

私は学生の頃、保育士として働く毎日が楽しいと語る先輩にお会いしたことがあります。その先輩の話を聞くまでは働くことに不安を感じていましたが、先輩の表情が生き生きしていたので、いつか自分も先輩のようになりたいと思いました。実際に働き始めて、まだまだ力不足なことは、たくさんありますが、日に日に子どもとの関係性が深まっていることに喜びを感じます。今後子どもたちと良い信頼関係を築いていけるよう尽力したいです。



都島児童館

西 竜也 (2年目)

子どもたちとのつながりを大切に

昨年は契約社員としてお世話になり、今年から正規職員として勤めさせていただいています。私は友渕生活クラブが都島友の会へ経営移管する前からアルバイトとして勤めていました。その経験から、父母会運営と法人のもとで運営される違いを、より感じるがあります。法人ならではのつながりが、子どもたちにとってかけがえのないものになっていると行事や里帰りなどでの子どもたちの姿を見て感じます。これからもつながりを大事にして励みたいと思います。





友渕児童センター 中田 久美

各施設の園長・副園長・主任の集まり

水木会



都島友の会のシンボルマーク「ひまわり」。小さな種から想像もできないほどの大きな花を咲かせ、たくさんの人を喜ばせてくれます。子どもたち、利用者の方の笑顔の花を咲かせようと思えば、何が大切なのか…。その答えを日々の中で、また研修等で学びながら、自分の力に変え実践しています。しかし、一人だけの力では、なかなか難しいもの…。そこで!!都島友の会では、水木会、五月会を通じて、同じ施設の職員だけでなく、他園、他施設の職員（同じ年代）と交流し、スキルアップに繋げています!

新たに誕生しました!

各園・施設副主任、リーダーの集まり

五月会



縦との繋がりも大切ですが、横との繋がりも大切です。1年に1・2回ではありますが、同じ役職の職員が同じテーブルを囲み、食事しながらゆんたくします!他園・施設の職員と話すことなどあまりないので、初めはやはり緊張しますね。でも、時間がたてばこの通り(笑)都島友の会の運営について、また現場の声等、熱いトーク合戦やカラオケ等を楽しみながら(笑)、交流しました。何気ない会話の中にも、たくさんのお見聞があり、ただ「楽しむ会」ではなく、「楽しみながら学ぶ会」となりました!

この会がひまわりの根っここのひとつとなり、都島友の会を盛り上げる新たな力になるよう、またその力を現場で発揮できるよう頑張っていきます。



平成29年度職員採用活動について

都島乳児保育センター 田中 綾子

現在、保育や高齢者福祉の現場においての喫緊の課題は、質・量両面においての人材の確保と一層の充実です。児童施設では待機児童を解消するため、に新しい保育所を増えているものの、必要な保育士の数に比べ、「保育士になりたい」と就職を希望する学生が少ないという現実があります。また超高齢化社会に向けてますます介護現場で働く人が求められる時代、「介護の仕事は大変」というイメージが強いからなのか、介護職員の絶対的な不足といいた大きな課題があります。私たち都島友の会もその例外ではなく、必要な採用人数よりも就職を希望する学生が少ないと厳しい状況が続いています。

今年度、私たちは昨年度採用活動をしてきた中で見えてきた課題や反省を踏まえ、より一層法人の魅力を発信する広報活動に力を入れること、採用サイトや就職フェアへの積極的な参加、養成校との密なコミュニケーションを図るための学校訪問の強化など、優れた人材を確保するための多くの取り組みを始めています。また福祉の仕事に関わることの魅力を発信し、一人でも多くの人に興味や関心を持ってもらうこと、さらには職場環境の整備においてもハードソフト両面にわたり、「働き甲斐」のある「働きやすい」職場に向けて、いつそうの充実を図りたいと考えています。

5月14(日)「マイナビフェア」に参加



大阪府下の保育所約40か所が集まり、梅田スカイビルで行われました。若い保育士の職員も参加し、学生が気負わず色々なことを質問できる雰囲気作りを大切にしました。

7月15(土)福祉の就職総合フェア 2017 in OSAKA



6月4日(日)「法人説明会・見学会」



都島児童センターで行いました。都島友の会創立85周年記念DVDや各施設の紹介DVDを上映しました。その後、都島乳児保育センター・都島第二乳児保育センター・都島東保育園・都島児童センターの4施設を実際に見学しました。都島児童センターの園庭で焼きたてのたこ焼きを食べながら先輩職員に質問 TIME!「採用試験の面接ではどんな質問をされましたか?」など具体的な採用試験に関する質問も多く、和気あいあいとした雰囲気の中、会話も盛り上がっていました。「一人暮らししている先生は多いですか?」など質問の種類も様々でした。

地域の皆さんに見守られ、助けられ…。

私たち都島友の会は、法人の基本理念にも掲げているように、地域福祉や地域に貢献できる地域に開かれた社会福祉法人をめざして歩んできました。その一方、私たち法人、その活動は、多くの地域の皆さんの力や助けによって成り立っています。

今回は、日々、私たち法人を陰に日向に支えていただいている“みまもり応援隊”の方々の活動をご紹介します。

みまもり応援隊とは…

法人の非常勤職員として長年私たちを支えてこられた中根さん。そのお知り合いの皆さんで結成された、通称『チームなかね』さん。皆さん、もう第一線のお仕事をリタイヤされた方々ですが、まだまだパワフルなおじさま方です！最近ではお会いしたことのない大人の方の来園に対して「必ず声をかける！」というルールを追加し、より一層安全対策に力を入れてくださっています。



中根さん



誰もが輝ける地域に向けて、手を携えて、都島区内一致団結！！

こんなことをしています…

- ・資質向上の研修会・施設間交流会
- ・避難訓練・福祉ふれあいフェスタ など



都島東保育園 谷水 梨恵

門の前に立つ以外にも…

- ・自転車を出しやすいように方向転換してくれています。
- ・朝早く来て、園内全ての窓を開けて換気してくれています。
- ・園まわり、園内の掃除をしてくれています。
- ・園庭の花壇の水やりをしてくれています。
- ・長期休園中には生き物のお世話をしにきてくれています。
- ・うさぎ小屋を手作りでプレゼントしてくださいました！
- ・水槽を常にピカピカにお掃除してくれています。
- ・クリスマスには、サンタさんに大変身！
- ・体育用具や、様々な個所の修理をしてくれまます。
- ・夕方には年長組が育てている野菜の水やりも一緒にしてくれています。



電動自転車でもなんのその！



自前の衣装です！



水やりは愛情！
こっちの方も優しく～

乳幼児の施設では、近隣の方で時間の都合の合う方や「みまもり応援隊」のみなさんに、朝・夕方の門前の自転車整備や子どもたちの安全を見守ってもらっています。



乳児センターの子どもたちの安全を見守って13年！

高齢者施設でも「チームなかね」さんは大活躍！当直をサポートしてくれていて夜間の電話の応対や、夜間の見回りもしてくださっています。また、たくさんボランティアの方が協力をして、色々なイベントを繰り広げてくださっています。

高齢者施設でも



ひまわりの郷には、開設時より現在まで続いているカラオケ教室があります。これは月に一回、歌の柴原先生と地域のボランティアの方でなっている行事です。入居者はもちろん、ボランティアさんも歌い、時には踊ることもあります。カラオケ教室で歌った歌を披露するための、「歌謡ショー」も年に一度開催されます。やっぱり日頃の練習が大切ですね。



隅々までピカピカに★



新しいおうちやで～。

他にも、成育児童センターの隣には、「成育コミュニティ憩いの家」があり、以前の町内会長さんが、園の門付近に向けて防犯カメラを設置してくださいました。地域の皆さんに支えてもらって、子どもたちも安全に楽しく過ごせる、都島友の会です！



移動動物園<9月23日(土)>は
桜宮橋(銀橋)の南側で行う予定です。

福祉ふれあいフェスタ

都島区民まつりと同時開催されています。障がいを持った方、子どもから高齢者の世代間交流や心の触れ合いを通じ楽しいひと時を共に過ごし、地域に開かれた施設づくりのステップとして開催しています。今年度は、地域の方への還元で移動動物園の開催を計画しています。他にも様々な楽しいイベントを企画中です。

私たちの地域が、高齢になっても障がいがあっても自分らしい生き方ができ、また安心して次世代を育むことのできる地域にするためには、多くの方々の力や協力が必要不可欠です。行政や私たち社会福祉法人のみならず、地域住民やボランティアの人たち、NPOや各分野の専門家など多様な人々が担い手となり、互いに手を携えて地域の生活課題を解決するため協働し、きめ細かな活動を行っていく…。そのような協働作業実現のプロセスの一つとして、現在、私たちは

都島区内にある社会福祉協議会と連携し、様々な活動に取り組んでいます。

社会福祉協議会とは子どもから高齢者にいたるまで誰もが安心して暮らすことができる「福祉のまちづくり」をめざしている民間の組織。さまざまな住民グループやボランティア団体、社会福祉施設などが集い、互いに協力して、共通の利益や地域貢献の視点を立ち、それぞれの良さや特徴を生かした活動を行っています。まさに、都島区一致団結！！

地域の方・施設間で情報を共有するために…

災害時、よりスムーズに地域の方と助け合える為にも、「各施設の資源が分かれば…」都島区内の福祉施設では、どんなサービスが受けられるの？」そんな思いから平成28年2月に『みやっこガイド』を作成し完成しました。

① 内容

・相談支援内容・所有している様々な資源(物品人材・会場など)・施設のPR など

② 利用方法

原則として都島区内に所有し、かつ代表者のいる団体、施設及びグループが冊子を利用できます。施設利用や相談業務に関して個人での利用もできます。

③ 設置場所

社会福祉法人の各施設及び、地域の民生委員さん、小学校にあります。



平成28年度事業をふりかえって

本部事務局長 寄瀬 博光

改正社会福祉法の施行（平成29年4月1日）後初めての定時評議員会が、平成29年6月16日に開催されました。
この評議員会では、当法人の平成28年度事業について報告され、また決算が承認されましたので、その概要を紹介いたします。

法人創立85周年

平成28年は法人創立85周年。法人の歴史を振り返るとともに、法人が担ってきた事業を地域や保護者に紹介する「85周年記念発表会」には延べ約500名が参加。ふれあい動物園などの「みやっこまつり85th」には、園児・地域から約1250名が参加。この記念行事を通じて、地域とともに歩む当法人の姿・活動を改めて皆様を紹介する絶好の機会となりました。



85周年記念発表会



みやっこまつり 85th



新規事業と施設整備

当法人は児童施設・高齢者施設、公益・収益関係で40事業を実施しています。

平成28年度は、新たに都島児童館の留守家庭児童対策事業「都島生活クラブ2組」、成育児童センターで地域子育て支援拠点事業「フレンドリーせいかく」、こども発達サポートステーションで「障がい児療育等支援事業」を開始、城東区に「児童・デイサービスせいかく」を開設しました。

施設整備の主なものとしては、入園希望者の多い都島桜宮保育園では、本年1月の分園設置（定員25名）に引き続き、平成30年4月の開設をめざし改修・増築（定員51名増）工事に着手。このため、地下鉄都島駅近くの仮園舎での生活が始まっています。高齢者施設では、14年が経過した特養ひまわりの郷の空調設備を、環境省のCO₂排出抑制対策補助金を活用し更新。またデイサービスひまわりでは、設備の充実とともに、ゆったりと過ごしていただけるよう、1・2階を大規模リニューアルしました。

平成29年度に向けて

【児童施設】

幼保連携型認定こども園・保育園10園の平成28年度委託児童数は、都島桜宮保育園の分園開設による途中入園者の増加もあり、年間延べ人数で1万5613人と、前年に比べ462人増となっています。

各園の教育・保育は、日々の生活やあそびの中の学び・その教育的ねらいを踏まえて活動できるよう計画しています。また当法人の教育・保育の指針となる乳児マニュアル・幼児マニュアルを活用して
【高齢者施設】
ひまわりの郷では、インフルエンザの感染が原因で、特養・シヨートステイの稼働率が97%と前年に比べ減少しました。平成29年度は感染症防止とリスクマネジメントに努めるなど、入居者の安全確保と危機管理を高めていきます。また開設から15年が経過し、入浴機器を入れ替えるなど、快適な環境づくりを進めます。
平成28年度、全面的な改修をしたデイサービスひまわりでは、認知症予防・安全安心のサービスの提供など、利用者の癒しの場としての施設づくりを進めることにしています。

【比嘉正子地域貢献事業研修センター】

ひまわりネットでは、「先が見えない、終わりのない」相談、精神疾患や生活困窮の相談が増加。相談者の自立支援に向け、専門機関との連携が広がり深まっています。地域の相談窓口として、平成29年度は、心の居場所の充実を図ることにしています。

【人材確保と研修】

保育士・看護職員の確保に向け、養成校訪問、求人サイトの活用、就職フェア参加、見学会の実施等、今の時代に合ったリクルート活動を展開しています。平成30年度は都島桜宮保育園の定員増もあり、より力を入れた確保対策に取り組めます。また、職員が長く仕事を続けられる職場づくりを進めていきます。

職員のキャリアアップのため、その専門性が評価される仕組み（キャリアパス）の構築に向け、比嘉正子地域貢献事業研修センターでは平成29年度、研修体系を整備します。

研修体制の強化



デイサービスひまわり リニューアル



実践しています。平成29年度には、このマニュアルを職員研修用テキストとして再編することとしています。

危機管理においては、特に鳥取・熊本での地震が発生したこともあり、対応への確認とともに、子ども自身にも身の守り方を学ぶ機会をつくりました。今後とも、

防災マニュアルの見直し、活用など防災への取組みを進めていきます。

小学校とは教員実習の受入れ、情報交換会など連携は少しずつ深まっていますが、卒園児の就学のため、小学校とのより良い関係を築いていきたいと考えています。

都島児童館の留守家庭児童対策事業「生活クラブ」は、平成28年度に都島生活クラブに2組を開設、5カ所の運営となりました。利用希望者が多いこともあり、平成29年度には、新たに御幸生活クラブを開設します。

児童発達支援事業は、こども発達サポートステーションを拠点に実施。特に平成29年度は、保育所訪問支援事業に積極的に取り組むことにしています。また卒園児への療育支援や放課後等の支援を行う都島児童デイサービスは、平成28年度、前年に比べ利用者数が大幅に増加しました。通園希望者が多く、平成29年度は、都島児童デイサービスを「あつぷる」「れいんぼー」に分離し、平成28年度に開設した「児童・デイサービスせいかく」とともに3事業所となります。

都島桜宮保育園分園 開設



沖縄での渡久地理事長の講演と研修に同行しました。

恒例の渡保育園での理事長研修を終えて、さあ出発！



案内して下さった宮里ご夫妻



豪華ユインチホテル南城
沖縄では希少な温泉付きです



ラ・ペジブル泡瀬
タピックが運営されているサービス付き
高齢者向け住宅



沖縄リハビリテーション
センター病院のVIP室
外国人仕様です。

東南植物楽園
約1,300種類の植物が鑑賞できる
エンターテイメント植物園リゾート



ゆんたく



タピックのみなさんと
渡保育園の伊禮園長も入って懇談
比嘉正子も話題に

5月19日から23日まで、渡保育園での職員研修、そして沖縄で総合ウエルネス事業をされている「タピック・グループ」で行われた理事長の講演に同行しました。渡保育園での職員研修では沖縄と大阪をつなぐ創設者比嘉正子の社会福祉の理念について話をされ、今回招待を受けた「タピック・グループ」では、「比嘉正子の生涯を捧げた社会事業と生まれ育った沖縄」をテーマに講演をされました。

私たちの法人では乳児保育から高齢介護まで、常に「地域」を意識し、地域の人々の暮らしや生活に根差した持続的支援を行っています。一方、今回訪問したタピックさんは、「世界中の沖縄」との視点で、医療や福祉を軸に、医療ツーリズムや癒しのリゾート、マインドフルネスといったこれまでにない新しい取り組みをされています。

今回、理事長に同行しながら、21世紀の日本はこれまでも増して地域への視点を深めなければいけないと思うと同時に、世界的な視野、グローバルな眼差しも併せて持たねばならないと痛感する旅となりました。

特別養護老人ホーム ひまわりの郷

海老子 隆一

今号の表紙

- ① 認定こども園 都島児童センター
- ② 都島乳児保育センター
- ③ 都島桜宮保育園
- ④ 都島第二乳児保育センター
- ⑤ 沖縄 松島保育園



編集後記

都島友の会の広報誌「ゆんたく都島」は2007年の創刊から今年で10年目を迎えました。今号の発行にあたり、再度創刊号から前号までを読み返し、その変遷を自分なりに辿りました。私自身、法人に入ってからちょうど10年目、なにか奇縁のようなものを感じています。記念すべき節目の年に編集委員として携わらせていただき、改めて「広報」することの楽しさ、難しさを感じています。これからも、「ゆんたく」を手にとっていただける皆さまお一人おひとりに、都島友の会の「今」をお伝えすることのできるよう、精一杯頑張ります。



都島児童センター 錦城 栄旭